

COC Kumadai

熊本大学
地(知)の拠点整備事業
最終報告書

2014 ▶ 2018
(平成26年度～平成30年度)

活力ある地域社会を共に創る
火の国人材育成

熊本大学では、熊本県内の多様な地域課題解決に貢献するため、社会貢献を柱として、全県域への拠点活動や、まちづくり、産業振興、地域医療の支援などに取り組んでいます。

平成 26 年度から文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（COC 事業）」に採択されたことにより、学長をトップとした地域創生推進機構を設置し、地域で学び、想像力をもって地域の課題解決に挑戦し、世界規模で社会に貢献する“熊大スピリット”にあふれた人材の育成を目指し、「活力ある地域社会を共に創る火の国人材育成事業」を推進・展開してきました。

平成 29 年度には、熊本創生推進機構の設置へと発展し、引き続き地域課題を解決できる人材育成に取り組んでいるところです。

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震では、県内様々な地域で多くの被害が出ました。本学も黒髪キャンパス工学部 1 号館や五高記念館を始め、多数の建物、備品が損害を受けました。熊本大学は、研究者の震災復興への想いと地域とともに発展を遂げてきた本学の使命として、これまでの研究成果を震災復興に活かせないかと考え、「熊本復興支援プロジェクト」を立ち上げ取り組んできました。自治体や地域住民の方々の声をもとに、研究者の発意による復興プロジェクトチームを結成し活動を続けています。COC 事業では、復興ボランティア活動支援プロジェクトの窓口として、震災復興の各ステージに応じ学生ボランティアによる支援活動や大学の知的資源、専門性を活かしたコミュニティ支援を実施しています。

平成 26 年度から取り組んでまいりました COC 事業も、平成 30 年度末で 5 年という節目を迎えます。「肥後熊本学」の全学必修化、地域志向科目群の設置、PBL 科目の充実など人材育成を行う教育の整備に加え、教員や学生の地域貢献活動もさらに活発になってきています。次年度以降も、本学教職員・学生一同、地域の皆様、関係自治体や企業、団体の皆様と連携しながら、復興支援も含めた地域貢献活動に取り組んでまいりますので、ご協力とご支援のほどよろしくお願い致します。

熊本大学 学長

原田 信志



COC

＝ 地域課題解決プログラム

共に学ぶ
仲間ができる

地域の課題に
向き合える

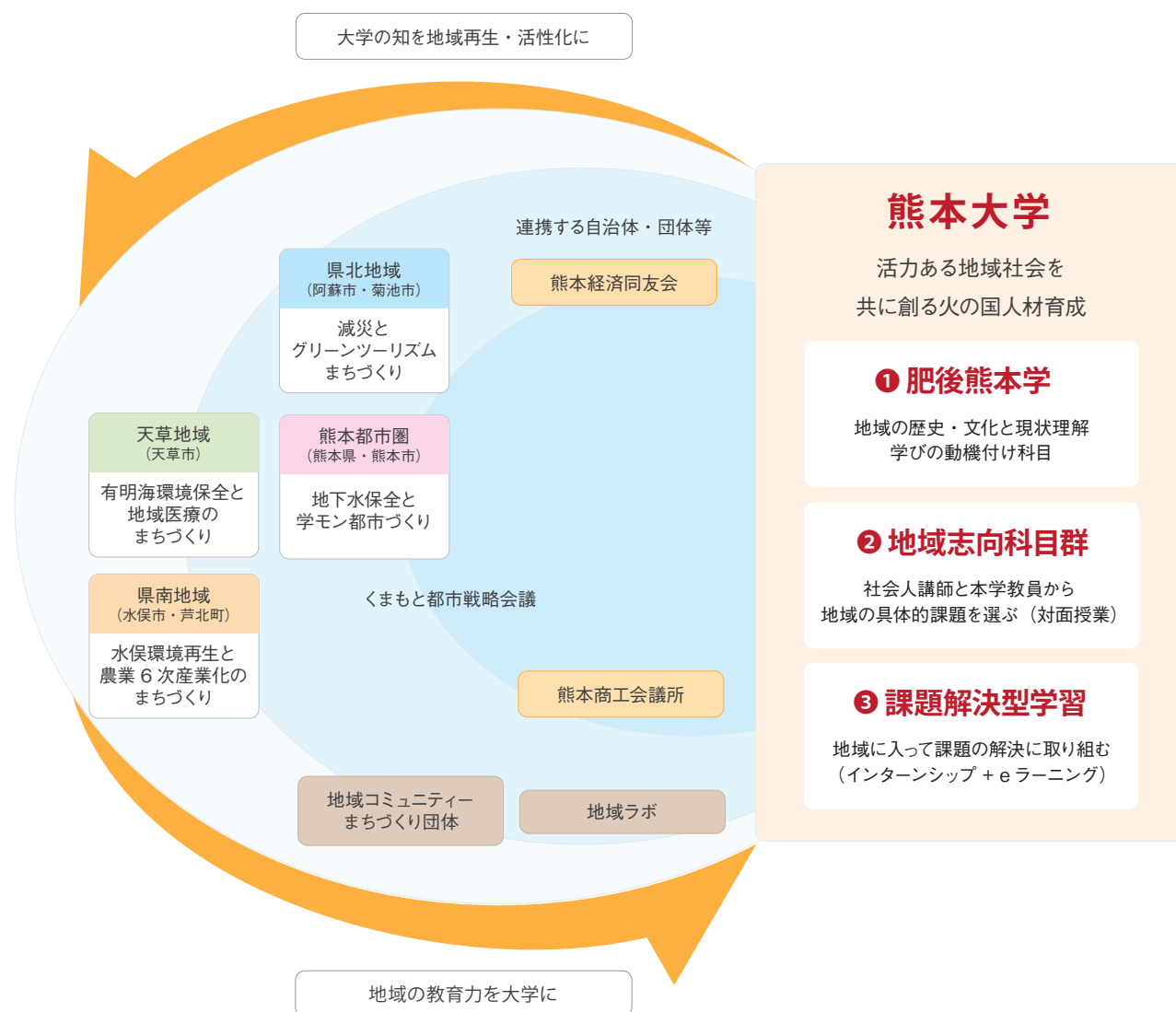
学んだことを
地域に還元する
チャンスがある！

活力ある地域社会を共に創る火の国人材育成事業

平成26年度より、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（大学COC事業）に採択された熊本大学では、地域課題別に熊本県内の4つの地域（熊本市圏、県南、県北、天草）を拠点化し、地域の課題に対応しながら熊本地域のCenter of Communityとして、全学的に「活力ある地域社会を共に創る火の国人材育成」拠点の形成に取り組んでいます。

この事業では、大学等が自治体を中心に地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学等を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としています。

▼ 事業イメージ



「肥後熊本学」の 全学必修化

（平成29年度より）

38

地域志向科目群の整備科目数
（平成30年度）

5

地域課題解決科目（PBL科目）
の整備科目数（平成30年度）

21

地域課題解決プログラム修了者数
（平成30年度までの述べ人数）

教育

×

ボランティア

1,367

平成28年の熊本地震発生を受けて発足した「復興ボランティア活動支援プロジェクト」にて、本学学生が被災地域でボランティアを行った述べ人数
（平成28年度～平成30年度）

熊大COCの
特色

[特集] 地域に育まれる学生たち

Kumarism



熊本地震の風評被害と戦う観光地



Kumarism は、平成 28 年熊本地震を契機に、風評被害に苦しみ県内観光地を支援するために「熊本の観光業を盛り上げたい!」という思いで発足した学生団体です。”熊本の観光情報と言ったら Kumarism”と多くの方に言ってもらえるような観光情報サイトを目指して日々活動しています。平成 28 年度は日本財団の支援も受け、熊本県女将の会の協力をいただきながら、天草地域や阿蘇地域の情報発信を行いました。立ち上げ当初は震災復興をメインの活動として行ってきましたが、現在は離島や山間地域などへき地の魅力を地元の方と発信し「観光」をキーワードに地域の企業との課題解決にも取り組んでいます。熊本県内の観光地を学生自ら取材し、実際に地元の方と関わる中で感じたことを、現地の生の声として自分たちの言葉で伝えていきます。

熊本のために行動している私たちですが、同時に私たちの成長の場にもなっています。現地の人との繋がりや、そこでの経験は私たちのかけがえない財産です。Kumarism を通して、今しかできないことをまず自分たちが楽しんで取り組んでいるからこそ、より熊本の魅力を伝えることができると考えています。



Kumarism のウェブサイト <http://kumarism.jp> には、彼らが取材した観光地のレビューが並ぶ

熊本には沢山の魅力がある。
学生の目線でそれを伝えたい。



天草プリンスホテルの女将さんから震災の影響についてお話を伺う



阿蘇で放棄地となった畑に花を植える



下田温泉(天草)の望洋閣での取材

企業とのコラボレーション

平成 29 年 3 月 5 日(日)、熊本日日新聞社で「熊本課題解決プロジェクト」が開催されました。県内の企業が抱える課題を大学生が解決するために調査をしたり、提案をしたりするコンペで、Kumarism は熊本ホテルキャッスルとコラボし、売り上げの 20%を占めている婚礼が、ここ数年急激に減少しているという問題の解決に向けて、学生と企業とで取り組みました。そもそも「結婚式は何のために行うのか」について考え、結婚式を挙げることにについてワクワクするような若者が増えるよう、高校生や大学生のうちからアプローチする「学婚(M:まなこん)」、「参婚(S:さんこん)」、「決婚(K:けっこん)」の 3 ステップを準備した「MSK〜ホテルで結婚式を挙げたい大作戦」を提案し、見事準グランプリを受賞しました。

他にも、コンペでは大学生が県内企業と組んでいろいろな提案を行い、プレゼンの組み立て方、データによる論拠、聞き手をワクワクさせる仕掛け、コンペに参加した学生同士の交流など、お互いの専門性からどのように地域課題に取り組んでいけるのかという議論がなされ、刺激を受けました。



熊本ホテルキャッスルの福岡さん(右)と

5時間目、少し緊張した様子で生徒が視聴覚室へ入ってきました。今日は熊本県立牛深高校での課外授業「熊大移動大学“くまもとみらいずむ”」、講師は熊本大学 Kumarism（くまらずむ）の学生総勢12人が務めます。

生徒が入ってくる1時間前、大学生たちが生徒を迎え入れるための準備をしていました。気分をほぐすために行うアイスブレイクのゲームのリハーサルでは、明るい雰囲気ながらも時折「この言い方でいいかな」「こっちの方が分かりやすいかもしれない」「それだと説明難しくない？」と声が飛びかいます。「一応事前に授業計画にアドバイスはしますが、当日は全て学生に任せます」そう話すのは安部美和准教授（熊本大学熊本創生推進機構）。学生たちが作成した授業計画は、分単位でスケジュールが管理され、内容やプロジェクターで投影する図の確認、司会進行やタイムキーパーの役割などがきちんと組まれていました。

授業はグループ形式で行い、各グループに大学生がリーダーとして入り、高校生たちとコミュニケーションを取りながら授業を進めます。ここ牛深高校は熊本県の最西端にあり、牛深町の人口は約1万3千人（2015年国勢調査）。高校卒業後に大学に進学するのは約2割、大学に入るには町を出なければ

ならないことから、高校生が日常的に大学生と接する機会がないとのこと。大学生とは言え、高校2年生とは歳が2つか3つしか離れていないはずですが、やはり最初は生徒たちの表情もごこちない様子でした。最初に学生が今日の授業の流れや自分たちの活動について笑いを交えながら説明し、各グループ内で一人30秒の自己紹介が始まりました。別のグループで小さな拍手が起こると、伝染したように別のグループでも拍手が起こり少しずつ和やかな雰囲気になってきます。自己紹介が終わった生徒はほっとしたような顔で、アイスブレイクのゲームが終わった頃にはすっかり笑顔に。

実際に大学生がどのような研究を大学で行っているのかについてスライドを見せながら発表を始めると、賑やかだった教室が静かになり、熱心に聞く生徒の姿が見られました。専門用語が出てくるとぼかんとしながらも、興味深そうに耳を傾けている様子が見て取れます。「私たちが話して聞かせてもこんなに熱心には聞かないんですけどね」と言いつつ、授業を見守っていた牛深高校の荒木教諭は嬉しそうでした。あっという間の1時間の授業が終わった後、お話を伺いました。一進学率は2割と伺いました。

進学率を上げたいというわけではないのですが、生徒たちの選択肢を増やしてあげたいという気持ちがあります。

一何度かこの取り組みを行っていると聞きました

日頃は全然授業で発言しない大人しい生徒が、こちらのグループワークではいきいきと話をしているのを見て、これはいい、と思いました。歳の近い大学生だとコミュニケーションも取りやすく、学校だけではできない取り組みなので、今後も続けていけたらと思っています。



大学生が「先生」になった授業。高校生も興味深く耳を傾ける

遠く離れた高校生に勉強の楽しさを教えたい
彼らが取った行動は
「大学を移動させること」

【特集】地域に育まれる学生たち

Kumarism

×

熊本県立牛深高等学校

“くまもとみらいずむ”
(熊大移動大学)



"K" の形をモチーフにした Kumarism のハンドサインで、牛深高校の生徒と一緒に記念撮影

くまもとみらいずむとは

わたしたちは、Kumarism という熊本の観光情報発信ウェブサイトを運営しています。

地元の人の声を、自分たちの言葉で届けたいという思いで、取材交渉から、現地での取材、記事の執筆、発信を行っています。

しかし、Kumarism を運営する大学生メンバーだけでは、地元の方の声を十分に届けることは難しいです。そこで、地元の高校生に、自分たちで地元の魅力発信をしてもらいたい! と考え「熊大移動大学、通称：くまもとみらいずむ」と題し、わたしたちの活動経験を活かした情報発信の仕方を伝える活動をしています。また、高校生が活動を通して、地元の良さを再発見したり、普段関わることのない大学生と話をしたりすることで、進路について考えるきっかけになればと考えています。

(Kumarism)

"くまもとみらいずむ" は県内の各高校で展開中

Kumarism 初！高校生に授業を実施

牛深高校

実施日：2017/11/15 高校生：51名 大学生：11名

タイムテーブル

- 13:50 授業スタート
Kumarism の紹介
みらいずむの解説
- 14:05 写真撮影のレクチャー
写真撮影タイム (10分)
写真の書き方をレクチャー
- 14:40 10分休憩
- 14:50 授業の感想を書き出す
ワークシートにまとめる
- 15:10 大学生の日常紹介
- 15:20 高校生の発表
授業のおさらい
- 15:40 授業終了

授業や小物にも気を遣いながら写真撮影も実施！

白い方眼紙を利用して、商品が際立つような写真撮影をします。授業では、タブレットを使用し、班のメンバーみんなが1度は撮影できるようにしています。

実際に食べて感想を考える時間も。

今回の授業では、牛深の名産品でもあるイチゴを使ったお菓子を、大学生と一緒に商品に魅力的に伝えるストーリーやキャッチコピーを考えます。

大学生の反省点

班内での交流だけになってしまうため、今回の授業からは、事前に今日参加する大学生の自己紹介をします。写真撮影の時間が予想より時間がかったため、今回はタブレットを班に2台以上準備します。班内のリーダー選びは、ジャンケンなどでなく、班の大学生がリーダーをしてくれそうな高校生に声をかけて推薦するべきでした。

完成記事

- ①「菓子工房えすばと」淡い初恋がよみがえる、四郎の初恋シリーズ！
- ②「食の天華 にじ」愛情たっぷり、安心安全の加工商品で、子どもたちを元気に！

Kumarism メンバーの母校でみらいずむを実施！

八代高校

実施日：2017/11/18 高校生：6名 大学生：7名

タイムテーブル

- 9:30 授業スタート
Kumarism の紹介
みらいずむの解説
- 9:38 写真撮影のレクチャー
- 9:47 写真の書き方をレクチャー
- 9:50 試食
感想を出し合う
- 9:55 ワークシートにまとめる
- 10:05 大学生の日常紹介
- 10:15 高校生の発表
授業のおさらい
- 10:20 授業終了

熊本銘菓イチゴパイを、食べて・話して・記事にする！

「イチゴパイ」を食べるのは、初めて...! の高校生。大学生と一緒に、五感を使って「イチゴパイ」をアピールする記事を作成させました。

大学生の日常生活に興味々々！

今回の授業でも、大学の様子を知る一つのきっかけになればと思い、大学生の日常生活を紹介しました。紹介後、高校生が積極的に質問をしてくれました。

大学生の反省点

八代高校でのみらいずむでは、高校生とマンツーマンで活動ができたため、生徒とより密に接することができました。また授業の前に、高校生が大学生に質問したいことを聞いておけば、質問に答える時間を設けることができ、より大学を身近に感じてもらえることができると思います。授業後は、八代のアーケード内の店舗(一心大助さん・Natural Sweet and snowmanさん・コッパンカー食堂さん)取材させていただきました。

完成記事

- ①サクサクの食感とほどよい甘さ！熊本土産にピッタリな「熊本城いちごパイ」

林業科と農業科の2学科に実施！

芦北高校

実施日：2018/01/24 高校生：75名 大学生：10名

タイムテーブル

- 08:55 【林業科】授業スタート
Kumarism の紹介
みらいずむの解説
- 09:15 写真撮影のレクチャー
写真撮影タイム (10分)
写真の書き方をレクチャー
- 09:45 10分休憩
- 09:55 高校生の発表
事前アンケートの結果発表
- 10:20 大学生の日常紹介
- 15:20 授業のおさらい
事後アンケートの実施
- 15:40 授業終了

【林業科】学生が自らが作った「なんでもかけ」を撮影！

「なんでもかけ」は、芦北高校の林業科の学生が、授業の一環で作成したものです。自分で作った「なんでもかけ」の魅力を、最大限に引き出す写真を撮影しました。

【農業科】先輩が作った「いちごジャム」を撮影！

農業科では、当学科の上学年が授業の一環で作った、「いちごジャム」と「マーマレード」を撮影！学生はペランダに出て、自然光を使って写真を撮る工夫をしていました。

大学生の反省点

高校生のグループを決めるのに時間がかかり、授業の時間が少なくなっていました。結果として、考える時間をうまく確保できず、作業的になってしまいました。高校側との密なやりとりや時間配分、事前準備の大切さを改めて実感した回でした。

完成記事

- ①【林業科】使い方は無限大！自然そのものを生かしたなんでもかけのインテリア「なんでもかけ」
- ②【農業科】まるで恋！7甘くて可愛い、芦北産あまなつを使った「マーマレードジャム」
- ③【農業科】大きな栗肉のつぶつぶ食感がタレになる！自然な甘酸っぱさが美味しい「いちごジャム」

高校生にしかかけない記事が完成！

球磨中央高校

実施日：2018/12/05 高校生：25名 大学生：3名

タイムテーブル

- 13:10 授業スタート
これまでの振り返り
発表方法の確認
- 13:15 高校生の記事発表
・これが言いたい特集
・風景特集
- 13:45 10分休憩
- 13:55 高校生の記事発表
・風景特集 (つつき)
・駅、神社特集
- 14:20 写真加工の紹介
- 14:30 授業のまとめ
事後アンケート
写真撮影
- 14:45 授業終了

高校生が地元の魅力について書いた記事を発表！

「地元の魅力」をテーマに一人ひとりが作成した記事を発表。大学生はもちろん、高校生同士も知らなかった人々の魅力を互いに知ることができました。

写真加工の様子を紹介。

写真に人が映っていることの重要性を紹介した他、Kumarismメンバーが使っているソフト Photoshopでの加工を体験。高校生はスクリーンに釘付けでした。

1校に対し年3回の授業を行えたのは、今回が初めてでした。「地元の魅力を自分たちで発信しよう」をテーマに、伝える手段となる写真撮影講座・プレゼンテーションの方法、パンフレットの作成に必要なレイアウトの試作に始まり、夏休みには、高校生に自分なりの地元の魅力を探してもらいました。写真の撮り方・文章の書き方に工夫を凝らし、地元の高校生にしか書くことのできない記事に仕上がりました。

完成記事

- 私の地元人語の 風景特集
- 私の地元人語の 駅・神社特集

「くまもとみらいずむ」の活動報告。Kumarismの学生が手作りし、各学校へ送っている



【特集】地域に育まれる学生たち

D-SEVEN



熊本市藤山仮設団地

【特集】地域に育まれる学生たち

晴天の冬の日、熊本市南区にある藤山仮設団地の集会所「みんなの家」で人が集まりお茶やお菓子を囲んで「たくさん入れた方が綺麗じゃない」「初めてだけど意外と上手にできたよ」と楽しそうに作っているのは小さな瓶に入れたハーバリウム。このイベントを企画したのは熊本大学の被災地支援団体D-SEVENの学生ですが、輪の中心は学生ではなく、あくまで仮設団地の住民のみなさんでした。

ここ藤山仮設団地は、熊本市南区城南町にあり、熊本地震でも特に被害の大きかった場所のひとつですが、地震から3年経った今、入居者は少なくなりました。「入居者が減るということは、もちろん悪いことではないんです。住居が見つかったということですから」と話す社会福祉協議会の谷さんは一方で、仮設団地の中でようやく出来たコミュニティが、人が減ったことでなくなり、その分孤立する単身の入居者が増えることも危惧しています。熊本大学のD-SEVENは、熊本地震がきっかけで生まれた被災地支援団体です。ここ藤山仮設団地のコミュニティ作りのお手伝いをしています。この日はハーバリウム作りと、チューリップの球根を、各集会所の前のプランターに植える活動をしました。球根を植えるときには、住民の方から植え方を教えてもらい、支援というよりも一緒に作業を楽しんでいる様子でした。「なるべく支援が一方向的にならないようにしています。あくまで一緒に楽しんで出来る活動がメインです」と話していたのはD-SEVENの山口さん。こちらが手取り足取り押し付けの支援をするのではなく、双方向的な活動を行うことで住民がより能動的な活動が出来る仕組みとなっています。

活動が終わったあと、学生と社会福祉協議会のスタッフは、災害公営住宅が完成する日取りに合わせて行うイベントについての打合せを行っていました。「新しい家で、飾れるようなものを作りたい」「思い出作りになるような会にしたいね」と、さっきまでとは違い、今度は学生が主体となってミーティングを行っていました。他のイベントと被らないか、時間帯は何時くらいなら人が集まりやすいか、丁寧に聞き取りを行いながら話を進めていきます。本日参加した学生は2年生が主で、熊本地震の際熊本にいなかった学生もいます。誰から強制されたわけでもなく、学生主体で行っているにも関わらず、その

D-SEVEN × 熊本市藤山仮設団地



仮設住宅のみなさんとプランターに球根を植える

想いを先輩から後輩へ引き継いで、息の長い活動を行っていることが分かります。

社会福祉協議会の谷さんにお話を伺いました。「最初はたくさんいた子供たちもずいぶん減り、高齢者がなかなか若い人と接する機会がないのでD-SEVENのみなさんには本当に助けられています。地震の被害については薄れていくけれども、ここにいる人たちはまだ地震の前の生活には戻れていない人たちなので、最後のひとりがここを出ていくまで支援の手を緩めることはできません」

今日の活動の終わり、みんなで後片づけをしながら、仮設団地からの引っ越しが決まった女性の方が「いままでありがとうね」と笑顔でひとりひとりの学生に声をかけていました。「主役はあくまで被災者で、私たちは出しゃばらずその手助けをするだけ」というD-SEVENの想いは今後も続いていきます。

D-SEVEN とは？

熊本地震の被災地支援がきっかけで生まれたボランティア団体です。約30人が在籍し、地震から3年経った現在も熊本市南区にある藤山仮設団地での住民支援や、阿蘇市の手野地区での復興支援活動など、息の長い活動をしています。平成30年度から、復興支援活動は農業支援や中山間地域の集落維持を考える活動に発展してきました。本冊子の表紙写真はその活動の一つで、阿蘇市手野地区の皆さんと一緒に活動している「田んぼ大学」の様子です。

復興の主役は被災者。
その手助けになりたい。

ZERO PROJECT × 黒髪校区第4町内自治会



自分たちで変える、
ごみ出しのマナー！。

熊本市のクリーンセンターや大学周辺の自治会と協力し、大学周辺のごみ出しマナー向上に向けて学生たちの団体が活躍している。

平成26年当時、大学周辺の自治会の一番の懸念はごみステーションのマナー違反の多さであった。曜日違いのごみ出し、分別のできていないごみの数々、いくら見回りをしても注意文を貼りだしてもなかなか改善しなかったごみ問題。何度も大学側とも交渉し、解決策を模索していた。こうした状況を解決するため、北部クリーンセンターの方々が仲立ちし、熊本大学



地域の方とゴミ捨て場のチェック

文化祭実行委員会でもある「紫熊祭」の環境部がこの問題の先陣を切ることになり、自治会長たちと定期的に地域を歩き、ごみ出しルール違反のごみ分別のし直し、ごみ出しマナーの講習会の開催などに参加して実情を知ることとなった。実際に活動に参加した学生たちからは、これまでの自分のごみの出し方を見直したいというものや、友達を誘ってもう一回参加したい、もっと多くの人に知ってもらう必要があるといった感想が聞かれている。こうした取り組みのおかげで、今では違反ごみは随分と減り、分別マナーもよくなってきた。

平成28年の紫熊祭では、地域の方々から環境部のメンバーへの感謝状の贈呈もあった。この活動は、自分たちの通う大学近隣の住民の方々とどう付き合っていくのかを考える姿勢を作るきっかけにつながっている。活動後の講習会では、ゴルフボールは「燃やすごみ」か「埋め立てごみ」か？ 金属のスプーンやフォークは「資源ごみ」か「埋め立てごみ」か？ といった分別クイズも出題される。今後は留学生にも働きかけられるよう、活動の動画の英語版の作成を予定したり、紫熊祭の学生だけではなく、いろいろなサークルも巻き込みながら地域のごみ問題に目を向けられるきっかけを作ろうとしている。地域のごみ問題をめぐり、地域住民との関係回復を図るだけでなく、今では一緒に活動をする関係にまで発展している。

Project Keep Left × 交通安全指導員

熊本市や地域の警察署と協力し、大学周辺の自転車走行マナー向上に向けた政策提言や活動を実施する学生が活躍している。平成27年から活動を継続しており、自転車マナー向上を呼び掛けるステッカーデザインを学生公募し、学内で学生投票を行ってきた。平成27年は「左側通行の徹底」、平成28年は「イヤホン走行禁止」をテーマにデザイン募集が行われ、熊本北警察署、交通安全協会や交通安全指導員の皆さんとキャンペーン活動を行ってきた。

学生の声

“キープレフト”は自転車のマナーアップを目標に活動する有志団体です。熊大周辺の自転車マナーを改善するためにマナーアップステッカーを作成したり、政策コンペに参加してきました。また、地域の方々と協力し交通安全運動を行うなど地域に密着した活動を中心に行ってきました。この活動に参加することで多くの方との繋がりを持つことができます。地域の方々に加え、市役所や警察、企業の方など学生生活だけではあまり関わることのない方たちと活動する機会が多くあります。またアイデアを形にするまで作り上げるという経験はやりがいや充実感があります。この経験は就職活動の際にも『多くの方に興味を持っていただけた』、『印象に残りやすいと言ってもらえた』など有利に進められたとの声もあります。

(Project Keep Left)



熊本北警察署等と協力し、雨の日でも活動を行った



熊本大学近くの子飼橋交差点でマナーアップキャンペーン



上段：左側通行（平成27年）
下段：イヤホン禁止（平成28年）
を啓発するステッカー

自転車をよく使う大学生
だからこそ、当たり前前の
ことを伝えていく。



日 時 平成 30 年 3 月 16 日 (午前 10 時 00 分～ 10 時 50 分)

参加者 原田信志 学長

松本泰道 副学長 (研究・社会連携担当理事)

新留琢郎 学長特別補佐 (COC+ 担当)

修了生 10 名

記録：天野慧 特任助教、福井奈美 技術補佐員、宮本茂生 特定事業研究員

地域課題解決プログラムでは、人材育成の目標を達成するため、地域志向カリキュラムを導入しています。地域の学びへの導入科目として「肥後熊本学」、地域科目を具体的に学ぶ「地域志向科目群」、して課題解決型学習である「PBL 科目」を設置し、所定の単位 (7 単位以上) を取得すると修了証が授与されます。平成 30 年度までに、176 名がこの地域課題解決プログラムに登録し、21 名の学生がプログラムを修了しています。

医学部保健学科看護学専攻 2 年 有村優花さん

私は医学部に所属していますが、この COC プログラムでの学びを通して、熊本地震後のボランティアや子どもたちの教育支援などの経験から、将来、助産師として医療面から熊本のまちづくりをしていきたいと思いました。

ボランティアのメンバーを集めたり、自分自身で勉強をしたりした経験は、将来、看護師や助産師になってから、必ず役に立つと思いました。

祖父母が熊本に住んでいることで、熊本に対しては愛着を持っているので、もともとは福岡出身で、地元ではない熊本で、ちょっと不安な面もありますが、将来は、熊本でも活躍して、役に立てていきたいいな、と思っています。

(原田学長) 看護師になるならば、実習とか入るので、これから大変かもしれませんね。

法学部法学科 2 年 松原圭佑さん

最初は、ただ教養教育を受けるだけではもったいないと思い、この COC プログラムを知って、COC の授業を履修して行ったのですが、徐々に中盤になるにつれて、熊本地域の魅力というのが面白いと思えてきて、履修してきて良かったと思いました。

東京や都市部の観光というのは、外国人の観光客も多く活性化していると思いますが、自分は趣味が旅行なので、将来は、地方の隠れた魅力というものを世界に発信できるようなお手伝いができる仕事をしたいと思っています。

(原田学長) 熊本、例えば湯前は今、何が発信できますか。

(松原さん) 湯前は、自然があって、人との距離も近いと思っています。街の観光だと、人と関わることはあまりないですが、農村や地方に行くと、人と話せる機会もいっぱいあると思うので、そういうところが活かせたら、と思います。

修了証授与式および座談会 地域課題解決プログラム

文学部総合人間学科 3 年 木佐貫朝菜さん

私は今回のプログラムを通して、熊本の魅力だったり、また抱えている問題だったり学ぶことが出来ました。特に、印象的だった授業は水俣病に関する授業です。私はこの授業を受けるまで、水俣病というものを教科書などでしか学んだことがなく、実際にどのような人たちがどのような思いを抱いているのか、ということを知りたくてこの授業に臨みました。授業では実際に水俣に足を運び、当事者の方々のお話をお聞きすることが出来、自分の目で見たり、聞いたりすることの大切さというものを、とても感じた授業でした。

私は将来、公務員を目指しているので、今回学んだ地域との向き合い方というものを活かしていけたらと思います。

(原田学長) 今、水俣のまちの印象は、どうですか。もう、きれいになっているでしょう。かなり長い期間経っているけど、まだまだ問題が残ってはいますね。

工学部社会環境工学科 2 年 大田賢志さん

COC のプログラムで一番多くのことを学んだのは天草に行った (フィールドワークの) 合宿なのですが、そこでは住民との意見交換をして、やはりその地域が発展するためには、僕らみたいな専門家だけがやるのではなくて、住民も主体となってやるのが大事だと思いました。

僕はまちづくりも専門なので、(この経験を) 活かしていけると思いました。

(新留学長補佐) そうですね、これから本当にそういう世界でプロとして、何かやっていけるようになればいいですね。

工学部社会環境工学科 2 年 山元康暉さん

私が COC を通して学んだことは、大学に入学してから分からないことがあったりすると、インターネットに頼るということが主だったのですが、COC の授業で私も天草に行き、その時にやはり、過疎の町というものを実際に見てみて、色々感じるものもあって、インターネットだけじゃわからないことも、実際に行ってみないとわからないこともあるのだ、ということを感じました。

私は将来、まちづくりをして行く面で、机の上だけで情報を得るのではなく、実際に行き情報を得るということを大切にしていきたいと思っています。

文学部総合人間学科 3 年 増満桃花さん

私はこの 1 年間のプログラムを通じて、熊本というまちの歴史や文化、また環境などについて様々な一面に触れることが出来たと思っています。

とても豊富な環境資源や、魅力ある歴史に溢れている熊本ですが、一方で、地域に目を向けると、まちづくりや、防災や、地域における紛争など、様々な問題がまだやはり山積していると思います。それが一番顕著に感じられたのが、水俣におけるフィールドワークでの、直接現場で課題と向き合った時間でした。

地域に目を向けると他から見ただけでは分からない、地域固有の特質などがあって、そういう特質に真摯に向き合っていくという今回のプログラムで学んだ姿勢を、今後生きていくうえでも大切にしていきたいと思いました。

(松本副学長) 水俣の近くに湯の児という温泉地があります。そういうところに行って、泊まってくるのも、実は地域おこしなんですよね。良いところですよ。





理学部理学科 1 年 安村 瑠風さん

この授業を通して、座学で知識をつけることができました。また、フィールドワークで、天草に行き、その中で一番自分のためになったことは、他学部の方との交流で色々な考え方が身につく、ということと、外国の方（交流協定校であるジョージア大学の学生）との交流があり、その中で日本と外国の考え方や行動の仕方などの違いを知れて、また色々な視点を得ることが出来たということで、今後の将来の夢などで役立つと思います。

（原田学長）（COC プログラムで）地域を学んで、世界に普遍的な色々な問題を考えに行くのが、この COC プログラム、あるいは COC+ プログラムのひとつの大きなねらいだと僕は思います。そういう意味で、海外の方と触れられたという経験は、非常に良い経験であったらと思います。

（新留学長補佐）英語でコミュニケーションを取れましたか。

（安村さん）難しかったです。

（新留学長補佐）そういうことを肌で感じて、良い経験になったのではないのでしょうか。

工学部社会環境工学科 1 年 長谷川 文悠さん

今回のプログラムで最も良かったと思ったことが、実際に（フィールドワークで）天草に行って、その生活などを実際に見ることができた、ということです。

僕は以前に東京や、名古屋、それから、福岡といった都会に住んでいたんで、あまり田舎というものを知らなかったんで、実際に見てみて、聞いているのと全然違ったと思い、やはり人と人との距離が近くて、それが知れただけでも良かったと思います。

（原田学長）田舎の方が人と近い？

（長谷川さん）はい、距離が近いです。

（原田学長）都会の方が、よそよしいしね。これはアメリカでも同じですよ。（中略）やはり若い人にとって、田舎に住むというのはかなり色々な意味で難しいものがあるのではないかと、本心言えば（思います）。それをどうにか解決するというのが、今の少子化とか地域の色々な問題であるけどもね。（中略）できれば中央に行くというのがその当時（50 年程前）からありましたよ。

法学部法学科 2 年 庄山 真由さん

私はこのプログラムで、まずは STEP1 と STEP2 の座学で、熊本についてと、課題解決のための基礎知識を身に付けました。その後、フィールドワークで湯前と天草に行き、実際に地域の課題について、自分たちで課題を見つけてその課題解決のために何が出来るのかを考え、課題解決のための能力を高めることが出来たと感じています。

この能力は就職活動や、将来就職した後にも活かすことができるものだと思うので、これからもいろんなことに積極的に挑戦して行きたいと思っています。

（原田学長）湯前や天草などの問題点というのは何ですか。

（庄山さん）湯前で言えば、一般的に言われる少子高齢化や空き家問題はもちろんなのですが、イベントなどを行なって活性化しようとしても、その一度で終わってしまって、もう一度訪れてもらうということが少なかったんで、それを課題として、解決法を考えました。

（松本副学長）地方創生で一番の問題は、先ほどおっしゃったように、地方の方が人が減って来ているということです。全国を見ても、それに対して若い人が入り込んで色々な取り組みをされて、少しずつですが、その地域が活性化されるということが色々出ています。天草の方では、IT 企業が入って行くということもあるみたいなので、何か（若い力で）貢献して頂くと非常にありがたいなと思います。

法学部法学科 2 年 北岡 葉月さん

私はこの COC の授業で、1 年生の時にフィールドワークとして湯前に行って、2 年生で「ボランティア実践」を選択し、ボランティア活動を 2 年生の時に色々なところに行かせてもらったのですが、ボランティアをあまりしたことがなく、地震から何年か経った被災地の仮設住宅などによく行かせてもらいました。イメージでは何かもうちょっと現実的な要求というか、食べ物欲しいとか、交通の便が欲しいとか、そういうことが求められていると思っていました。ところが、意外と、カラオケをしたいとか、遊びがしたいとか、普通に勉強したいとか、次の何か、願いみたいになっていて、そういうのは実際に行って、一緒にその仮設住宅に暮らしている方々と話して仲良くなって、色々な話をできることで、そういう欲求が聞けるのかな、と今回、思いました。

私は将来熊本市役所や、人と話して課題を見て、解決できるような仕事に就きたいと思っているのですが、COC を通して、実際現場に行ってみると話すとこの大切さが改めて分かりました。

私は元々熊本県出身なのですが、湯前や、阿蘇の奥の方まで（行ったことがなくて）、今回、初めて行けて、これからまだ時間があって、原付を持っているので、色々なところへ行って（みたいです）。私は太鼓もしていて、太鼓で色々な地方に演奏しに行ったりするのですが、そのように原付などで色々なところへ行って、例えばそのステージの時とかにお客さんと話して、どういう現状か、などを聞いて、それを将来活かせたらいいな、と思いました。

（松本副学長）田舎の良さというのは、先ほど言われたように、人とのつながりが近いということで、お互いに大切にしていますよね、人同士が。非常に、逆に魅力あるところじゃないか、と思います。皆さんご存知かな、鹿児島島の甑島（こしきじま）ってあるんですよ。ここが 2 万人いたのが、今 2 千人ぐらいに減ってきて、そこでまちおこしをしたいという人が、一度（島を）出た若者

が帰ってきて、そこで、観光とか漁業とか、新しい 6 次産業みたいな形で進めているんですよ。その方が、講演されたのだけど、やっぱり非常にがんばっているな、という気がして、生きがいがあるみたいだね。だから、たしかに都会の魅力っていうのはあるのだけど、一度都会に出られても、今言った熊本の良さを忘れずに何か機会があれば、またこちらに、もともとこちらに住んで、働いてもらうのが一番いいんだと思うけど、そういうことで（U ターンをして）頑張って非常に生きがいのあるような生き方をさせている方もいっぱいおられるので、それは意外と田舎にはあるのかも知れせんね。

（原田学長）（前略）（地域の良さを活かし切れていないという）問題をこのように、実地、現場に行ってみて色々体験された、ということ、このように良かったと言うのは、僕も非常にいい経験をされていると思います。大学の教育で一番重要なのは、こういう実地、他の理学部や医学部に行かれたら、実際は実習というのがあるわけですが、それと同じように座学だけじゃなくて、現場に行ってみて、あるいは色々な人と実際に体を動かして学習をすることは非常にやはり大学の時、重要なところだと思います。ただ問題は今の大学生は読書がほとんどゼロということ、がある。だからこういう問題をつかんだときに、やはりまた、既に課題が出てくるわけです、当然のことながら。その時は、今度は色々なその課題を持った本とか何かを集めて、知識を広める。そうすることによって知識は重層化するということがあると思うんですけどね。そういう色々な繰り返しが行なわれないと、本当に自分の身にはつかないのではないかなという気はします。

（松本副学長）修了証を今日、お渡ししたのですが、これで、この地域に関する考え方を終わ리と思わないで、むしろひとつの出発点みたいに考えて、自分なりに、色々な地方創生の本などがいっぱい出ていますので、一体どうやってまちづくりをしたのかとか、いろんな特色があります（中略）から、ああいうのをちょっと見られて、よく考えられるといいと思います。これから先は自分で考えていくということが重要かもしれませんね。その町長になったつもりで。



COC 科目 STEP3

多様性と人々の暮らしへの眼差しに よる社会課題解決 Area Studies (e)

受講者の感想

この授業では、外国人観光客を対象とする熊本市内等の事業者と共に、事業を取り巻く環境やコミュニティの課題を整理し、その改善や解決の方策をグループで検討し提案する。さらに、異なる文化・社会で生活を送るアメリカの同世代の学生との現地調査を通して、多様な視点から事業や周辺地域の暮らしの様子を知り、お互いの意見やアイデアを交えながら、社会課題をどのように捉え、アプローチしていくべきかを考えた。



Area Studies (e) について ～シラバスより～

授業の目的

熊本市内の地域づくりに取り組む人々に対してヒアリングを行い、取り組みの現場を視察するなどの活動をしながら、文化・社会で生活を送る同世代の留学生と交流し、社会課題とはそもそも何なのか、どのように捉えて、どのようにアプローチしていくべきかを考える機会とする。

授業の概要

事前学習として、日本全体が抱える少子高齢化と米国の留学生から国レベルで重要だと思われる社会課題について講義を行い、それを基に我が国の「地方創生」の意味について考え、地域コミュニティの役割やあり方についてディスカッションする。その後、熊本市内の地域コミュニティをフィールドとして、米国の交流協定大学の学生と共に、コミュニティ内の人々と交流しながら調査を行い、課題を整理しその改善や解決の方策をグループで検討し提案するという演習に取り組む。

文学部文学科 1 年

家族形態の変化について元から少し興味があったが、長屋を実際に訪れてみて、変化の大きさを肌で感じた。そして具体的な課題解決を考える中で地域社会との関係、土地、人々など多くの問題点を見つけることができた。全てを満たし解決できる策はあるのかと多面的に考えることができた。

(これからは) 社会問題を身近なものとして捉えて普段からよく考えるようにしたいと思った。この講義で熊本の観光業、生活の変化、空き家問題など複数のことを自分でよく調べ、現場に行ったりして、それらの問題が私たちに関係すると感じた。私はニュースや新聞を見ることを習慣づけておらず、社会問題への関心が薄いと考える。この講義をきっかけとして、社会問題を私たちの問題としてよく考えていきたい。そのために、図書館の新聞を利用したり、社会問題についての講義があれば受けていこうと思う。また、ジョージア大学の学生との交流を通して異なる言語、文化の人との会話の楽しさや楽しさを改めて感じた。私は将来、児童英語教師もしくは日本語教師になりたいと考えているので、この経験を大切にして勉強に励もうと思う。

文学部文学科 1 年

(この授業を通して) 1つの解決策を導くために、多くの人と考え方を共有し融合させる方法について考えることができた。特定の問題に対して複数の意見から1つの解決策を導き出すには、それぞれの意見の長所と課題点を見つけ、上手く長所を織り交ぜるという行程が必要になる。特に今回は異文化をバックグラウンドに持つ者同士でのディスカッションだったので、それぞれの意見を明瞭化するために、伝える方法・理解しようとする態度双方が重要だと実感した。

今回の集中講義で、地方創生・課題解決の難しさを実感した。それぞれに課題の違いがあっても、地域を盛り上げる大変さはどこも抱えている。今回自分の地元ではない地域の課題解決について考えたことでより新たな視点を持つことができたと思う。将来は自分の地元沖縄県の地方創生になんらかの形で少しでも関わることができたらと考えている。そのために、今後も地方創生について知識を増やし、新聞記事を読むなどして考える機会を作ると意識していきたい。



文学部コミュニケーション情報学科 1 年

私はエビス味噌本舗担当であったが、こんなに技術があり伝統もある店が何に困るのだろうかと思っていた。しかし現場の人の話を聞かないと分からない課題が多くあり、現場の話なしでは課題解決は不可能であることを学んだ。今回の活動で味噌や地域課題についての知識は増えたが、グループ活動やプレゼンの仕方などのスキルはまだまだであると思い知らされた。一方で、今回失敗できたことは大きな収穫である。今後の活動に活かすことで今回の失敗を意味のあるものになりたい。

私はこれからも地域課題を解決していくようなプロジェクトに参加してみたいと思った。地域には様々な課題がある。過疎化や空き家、医療の供給不足や高齢化などである。世界規模で考え世界で行動することは素晴らしいことであるが、世界規模で考え地域で行動することの必要性も高まっているように感じる。今回学んだ物事を多面的にみるということ意識しつつ、地域課題の解決に活かしていきたい。

工学部機械システム学科 2 年

伝えようとするスキル、幅広い視野で考え、話を聞くスキルなど多くの能力が身についたプロジェクトだったと感じました。

このプロジェクトを通して、もっと社会の改善すべき点を見つけていきたいと感じました。今までは、重要なことでも自分のことではないと感じていたため、関わることを避けていました。ですが、地域をよくしようと取り組むことがこんなにも楽しいことで、多くの人と関わって課題解決に向けての取り組みをしてみたいと感じる良いきっかけとなりました。私はボランティアにも興味があり、メールなどでボランティアの情報を受け取っているのですが、今回のプロジェクトのような、熊本や、その他の地域の活性化を図りつつ、ボランティアをするような活動に取り組んでみたいと感じました。



文学部コミュニケーション情報学科 1 年

問題を解決しようとするとき、まずは現状を知り、どのような点から解決が難しいのか、その問題をどのように解決したいのかなどその問題の根本を深く考えることが大切だと学びました。しかしながら解決方法はすぐに見つからないことも今回の経験を通して実感しました。さまざまな意見を参考にして視野を広げ、可能性を広げることが重要になることも学びました。この収穫は自分にとって大きいと思います。

また、問題解決の糸口は決して1つでないということ、考え方を少し変えるだけでたくさんの解決策があるということも学びました。(様々なアイデアが出され、)どれも問題解決の可能性を持ち、斬新な意見でした。多角的に物事を捉える面白さをこの企画によって知ることができました。



COC 科目 STEP3
地域デザイン論
(学際科目 3)

受講者の感想
(アンケート結果)

この授業は、中山間地に赴き、地域課題に取り組むワークショップ型の集中講義(2日間)と教室における講義を組合せた地域志向型科目である。地域の課題を発見し、デザイン思考により住民と協働して課題解決するプロセスを通して、地域活性化に資する思考力、創造力、表現力、コミュニケーション力を修得することを目指している。平成30年度の授業では、湯前町の歴まち認定のまちなみを活用したまちづくりをテーマとし、課題解決となる地域活性化のためのイベント等を企画・提案した。

地域デザイン論について ~シラバスより~

授業の目的

地域をフィールドにして自ら地域の課題を発見し、デザイン思考により住民と協働して課題解決するプロセスを通して、地域活性化に資する思考力、創造力、表現力、コミュニケーション力を習得する。

授業内容

教室における講義と現地をフィールドとした集中講義とする。過疎化、産業の活性化、子育てや高齢者等の福祉、地域情報化など地域課題を自ら発見し、スタンフォード大学 d-school で開発されたデザイン思考によって、課題解決のプロセスを体験する(PBL型教育)。また、現地の住民や行政と協働することで、地域に貢献する具体的なソリューションを提供する。現地調査・プレゼンテーションはグループ活動とする。

Q. この授業の受講を決めた理由として、最も当てはまるものをひとつ選んでください。

回答者数	理由
5 名	フィールドワーク(現地調査や現場体験)に興味があったから
5 名	友人に誘われたから
2 名	授業のテーマ(環境問題・環境配慮活動やまちづくりなど)に興味があったから
2 名	シラバスを見て(または、ガイダンスに参加して)面白そうだったから
2 名	COC/COC+のSTEP3に該当する科目だから
1 名	その他[具体的に:先輩からすすめてもらったから]

(回答者 15 名、うち 1 名は 3 つの回答を選択し、回答数計 17)

Q. 授業を受ける前と受けた後で自分の意識や考え方が変わったと思う点があれば教えてください。

理学部理学科 1 年

今までは地域住民の一員として役所が考えた政策を一方的に受ける側だったが、この授業を通して地域デザインがどれほど難しいことが分かった。そのことで今、どのような問題の解決のためにどのようなことがなされているのか情報を得たいと思ったり、地元観光客を呼び込むためには何をどのようにアピールすればいいのか、改善すればいいのか考えるようになったりした。

理学部理学科 1 年

授業を受ける前ははたして自分に歴まちづくりについてきちんとした提案が出来るのだろうかと思っていたが、フィールドワークやグループワークを通して自分にも貢献ができることがあると感じるようになり、積極的に考えられるようになった。

文学部総合人間学科 1 年

フィールドワークへの関心が高まってきた。普通の授業と違い、現地へ出てみたら、自分が思っていたことと異なることが多かったのも、これからフィールドワークをする前に、ちゃんと現地の情報を調べようと思った。

教育学部小学校教員養成課程 1 年

一緒にグループの皆や、他のグループの人も問題点をたくさん挙げてくれていて、意見を思っても口に出さないことが多い私ですが、積極的に発言する大切さを改めて知りました。

理学部理学科 1 年

今まで観光をする際に、街並みやその場所について調査をせずに観光していたが、今回は観光前だけでなく、観光後にも調査をしてグループで街の内容を深めることができたので、とてもいい経験となった。



文学部総合人間学科 2 年

行政側の方も情報発信のやり方や私たちと同じくらいの年の人たちがどのように情報収集をしているか知りたがっていたことに驚いた。最初は何の専門性もないただの大学生が行って何になるのかと思っていたが、情報などの面では役に立てるというか、私たちの感覚が必要とされていることに驚き、少しうれしかった。

文学部総合人間学科 1 年

「地域の活性化」には目玉をつくったり宣伝方法を考えるだけではなく、住民にも配慮しないとイケないし、むしろその事を大事にしないと住民との協議で賛成してもらえないことに気づいた。

Q. 今回の授業で一番印象に残ったことを教えてください。

教育学部小学校教員養成課程 1 年

最後のプレゼンテーション。私たちの班では、地域を生かしてさらに観光を盛り上げよう!という見方だったのですが、地域を一番に考える班、また、世の中の流行を地域に取り入れようとする班、新しいものを作って観光の目玉にしようという班。たくさんの違う見方から“活性化”させるという一つの目的に向かってアプローチができていたところがおもしろかったです。

文学部総合人間学科 2 年

何とかよくしようと様々な職業や立場のひとが知恵をだしあって、まちづくりや、まちおこしなどが行われているという過程を見せていただけたことが強く印象に残った。

工学部機械システム工学科 2 年

湯前町の未来計画を実際に考えたことの過程のうち、「調査」によって行く前と見た後では考えが全く違うものになったこと。

理学部理学科 1 年

実際に湯前町に行って最後に活動したグループ発表です。短い時間でグループの主張を決めて発表する難しさを感じたのはもちろんですが、他のグループの自分たちでは思いつかないようなアイデア・政策のプレゼンがとても面白く、聞いていて全く飽きなかったことが理由です。

教育学部小学校教員養成課程 1 年

やはりフィールドワークが印象深かったです。実際に訪れないと分からないその地域の魅力、気さくであたたかい住民の方々、素晴らしい景色を体験し、湯前町が好きになりました。

文学部総合人間学科 1 年

フィールドワークによる現地に出て、いろんなことを勉強した。日常生活では気が付かなかったことにも関心を持った。グループワークをする際にメンバーと話し合いながら、意見が出てくるのが大事だと思った。一番印象に残ったことは、最後の発表だった。2日間の成果が発表され、終わった瞬間、ほっとした。



資料編

事業概要と目的

熊本大学では、市民、企業、行政などと協力して地域課題を解決する人材育成を進め、熊本県やこれまでに包括連携協定を締結した市町村、企業等との取り組み実績を生かした、熊本地域の地方創生推進拠点（Center of Community）として、「活力ある地域社会を共に創る火の国人材育成」拠点の形成に全学で取り組んでいる。人材育成のフィールドとしては、熊本県全域を対象とした地域課題別に 4 つの地域（熊本都市圏、県南地域、県北地域、天草地域）を拠点化し、教育研究の場としてだけでなく、社会貢献の場として広く活動を展開してきた。

また、平成 28 年 4 月 14 日及び 16 日に発生した熊本地震以降、各被災地ではボランティアを受け入れ地域の復旧・復興が行われている。本学でも、平成 28 年 6 月に学長を総括リーダーとする「熊本復興支援プロジェクト」が設置された。本 COC 事業では、「復興ボランティア活動支援プロジェクト」を担当し、本学学生が被災地域でボランティア活動を行う際の支援や、各被災自治体の支援ニーズの収集および教員や学生とのマッチングを進めてきた。平成 29 年度以降も引き続き「復興ボランティア活動支援プロジェクト」の機能を残し、被災地でのボランティア活動支援を継続してきた。

教育

(1) COC プログラムの科目

COC の教育プログラムでは、熊本において教育・フィールドワークを実施することで、地域の課題を理解し、課題解決に向けた基礎的素養を身につけ、地域社会に貢献できる人材を育成することを目的としている。

地域志向の教育を充実させるため、熊本を舞台に学べる基礎科目、応用科目を地域課題解決教育プログラム（以下、COC プログラム）として展開している。COC プログラムは、地域の学びへの導入科目として「肥後熊本学」と、地域の科目を具体的に学ぶ「地域志向科目群」、そして課題解決型学習（Project Based Learning:PBL）の3つのSTEPで構成されている。この積み重ねにより、専門課程の基礎となる課題解決能力を培うことが期待されており、STEP1 に該当する科目から1単位、STEP2 に該当する科目から4単位、STEP3 に該当する科目から2単位の、合計7単位以上を取得した学生には、「地域課題解決プログラム修了証」が発行される。

	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
STEP1 肥後熊本学	—	熊本学（仮） （選択科目）	4 テーマ （選択科目）	12 テーマ （1 年次必修科目）	12 テーマ （1 年次必修科目）
STEP2 地域志向科目	25 科目	31 科目	34 科目	35 科目	38 科目
STEP3 課題解決型学習 （PBL）	—	—	3 科目	4 科目	5 科目

COC プログラムでは、ウェブを活用した専用ページを設け、プログラムへの参加を学生に呼びかけた。平成28年度以降、176名の学生からの登録があった。

（単位：人）

	文学部	教育学部	法学部	理学部	医学部	薬学部	工学部	合 計
H28 年度	11	10	14	1	1	1	19	57
H29 年度	17	19	19	4	2	0	27	88
H30 年度	10	1	8	2	5	0	5	31

(2) 地域課題解決プログラム修了者

平成30年3月16日（金）に、平成29年度地域課題解決プログラム修了証授与式を行い、原田学長より10名の学生に修了証が授与された。平成28年度と合わせて、COC プログラムの修了者は計14名となっている。また、平成30年度は7名の修了生が新たに誕生し、平成31年3月18日に修了証授与式が行われる。



修了者の声

最初は何気なく始めた COC プログラムでしたが、履修していくうちに、地元の良さが理解できてきました。将来は地元の良さを発信できるような仕事に就きたいと思います。

（法学部 2 年）

このプログラムにおいて、私は熊本地震の支援をしてきました。このことで学んだことを色々な面から活躍して行けたらいいなと思っています。

（医学部 2 年）

今回の COC プログラムを通じて、熊本という都市の歴史や環境、文化について様々な一面に触れることが出来ました。この経験で培った地域に対する真摯な姿勢というものを今後も大切にしていきたいと思います。

（文学部 3 年）

フィールドワークでは、実際に地方に行って課題を見つけその課題を解決するための案を自分たちで考えました。この経験は将来必ず役に立つと思っています。これからも積極的に頑張っていきたいと思っています。

（法学部 2 年）

(3) PBL 科目の開発及び実施状況

STEP3 では、実際に熊本地域が抱える課題に対する解決策を提案するプロジェクト型の教育を導入している。講義形式の知識習得は e ラーニングも活用し、授業時間はフィールドワークやディスカッションなどを中心とした授業を行うことで、学生の主体的な課題解決能力の育成に取り組むものである。平成 30 年度は、「熊本地震 2 年後の被災地を歩く」「環境配慮活動を行う」「地域デザイン論」「ボランティア実践」「多様性と人々の暮らしへの眼差しによる社会課題解決」の 5 科目が開講された。

環境配慮活動を行う キャリア科目 14

開講曜日：後期 / 水曜 3 限

担当教員：山口佳宏

フィールド：熊本市、水俣市、上益城郡、阿蘇市

履修者数：33 名

持続可能な社会の構築を目指すために、環境に配慮した活動を行っている団体から講師を招き、その活動内容を知り、グループディスカッションやフィールドワーク（現地での活動体験）を通じて知識を深め、その意義について学習する。さらに、環境配慮の啓発活動用チラシや広告を作成することで、グループ間の相互学習を活性化させ、環境配慮に関する活動について深く考える機会を得ることを目的とする。平成 30 年度は、熊本市や環境省九州地方環境パートナーシップオフィス（EPO 九州）等から講師を迎え、4 つの団体での活動体験が実施された。



上益城郡嘉島町での現場体験学習（炭焼き体験）



熊本市での環境学習体験（SDGsとJICAの活動）



水俣市での現場体験学習（水俣病資料館）



阿蘇市での現場体験学習（薪割り体験）

ボランティア実践 キャリア科目 53

開講曜日：集中講義

担当教員：新留琢郎、安部美和

フィールド：熊本県内全域

履修者数：2 名

ボランティア活動に参加するための心構えとその準備について確認し、地域活動を実践する。単位取得のためには、45 時間以上のボランティア活動に参加し、活動を通じた学びやその課題について毎回報告書を作成、ボランティア活動に参加している他の学生たちと情報交換や意見交換を通して、自分の活動を振り返るとともに活動の継続性について考えをまとめることが必要となる。熊本地震の災害支援活動に参加した経験を共有し、その経験を後輩に伝えるための方法や、被災地支援活動におけるマネジメントの方法について考え、行動に移すことを目標としており、平成 30 年度にはこれまでの活動をパネルにまとめ、大学図書館での展示を行った。



菊池市での農業ボランティア（稲刈り前の雑草取り）



熊本地震以降の学生ボランティアパネル展示の制作

地域デザイン論 学際科目 3

開講曜日：第 3 ターム / 火曜 3 限

担当教員：内山忠、本間里見

フィールド：湯前町

履修者数：19 名

中山間地に赴き、地域課題に取り組むワークショップ型の集中講義（2日間）と教室における講義を組合せた地域志向型科目である。地域の課題を発見し、デザイン思考により住民と協働して課題解決するプロセスを通して、地域活性化に資する思考力、創造力、表現力、コミュニケーション力を修得することを目標としている。平成 30 年度の授業では、湯前町の歴まち認定のまちなみを活用したまちづくりをテーマとし、課題解決となる地域活性化のためのイベント等を企画・提案した。



湯前町でのフィールドワーク



住民に対する各班のプレゼンテーション

多様性と人々の暮らしへの眼差しによる社会課題解決 Area Studies (e)

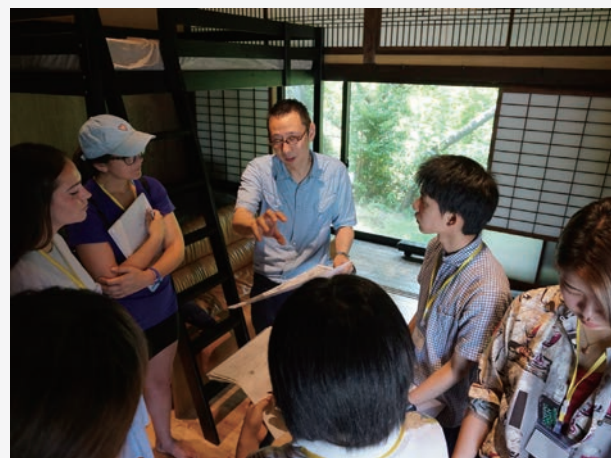
開講曜日： 集中講義

担当教員： 都竹茂樹、天野慧、河村洋子

フィールド： 熊本市、上益城郡益城町

履修者数： 26 名

外国人観光客を対象とする熊本市内等の事業者と共に、事業を取り巻く環境やコミュニティの課題を整理し、その改善や解決の方策をグループで検討し提案する。さらに、異なる文化・社会で生活を送るアメリカの同世代の学生との現地調査を通して、多様な視点から事業や周辺地域の暮らしの様子を知り、お互いの意見やアイデアを交えながら、社会課題をどのように捉え、アプローチしていくべきかを考えた。



古民家民泊施設での聞き取り調査



木樽仕込み味噌醸造所での聞き取り調査



各テーマでの発表会



体験型農泊施設での聞き取り調査

(1) サイエンスショップ型研究の実施

サイエンスショップとは、大学をベースにして専門家や学生が、地域の市民や NGO の要望にこたえて調査研究、技術開発を一緒に行う市民サポート組織のことで、1970 年代にオランダの大学で誕生したといわれている。熊本大学政策創造研究教育センターでは大学の知的・人的・物的資源を結集した研究成果を地域社会に還元し、併せて地域政策を担う人材を育成するため、大学と市民が協働で地域課題の研究に取り組む「サイエンスショップ型研究」を事業化し、その成果を地域社会の抱える課題解決に向けた政策提言として公表してきた。こうした、大学と市民とが地域課題解決に向けた研究や活動を実施する体系を活用し、COC プログラムでも学生団体と行政によるコラボ事業を実施している。

COC フォーラム開催状況

開催日	テーマ
2015/3/1	キックオフシンポジウム 熊本の未来を担うづくり・地域づくり
2015/7/18	第1回 Flat café 「熊本の地下水の持続的利用を目指して」
2015/8/29	第2回 Flat café「遊び」の民族文化
2015/9/30	Flat café in 牛深 「カラダの引き締めかた教えます!」
2015/10/18	熊本大学知のフロンティア講座 「熊大発!カラダの引き締め方教えます!」
2015/10/25	熊本大学政創研公共政策コンペ 「チャレンジ!熊本」
2015/10/31	第3回 Flat café 「外来種の分布拡大の現状と生態系の保全」
2015/11/28	第4回 Flat café「植物の力でみんなゲンキに」
2015/12/7	伝え・育む地域の健康 ～住民主体の健康づくりのために大学ができること～
2015/12/19	第5回 Flat café「ロボリーマン」
2016/1/30	第6回 Flat café 「自然災害と付き合うために、今私たちが考えるべきこと」
2016/3/23	第5回地域づくり交流会「地域の未来を担う教育の場づくり～地域づくりと高校生～」
2016/1/21	熊本大学政創研公共政策コンペ 「熊本のこれからを、私たちが変える!」

開催日	テーマ
2016/10/16	熊本地震学生ボランティア報告会 「熊本地震における大学生のまなざし 2016」
2017/1/29	第6回熊大政創研地域づくり交流会 「これからの熊本の地域づくりにおける若者、高校生」
2017/2/11	サイエンスショップ型研究活動報告会 「つながることで地域が変わる」
2017/3/10	COC、COC+ 合同シンポジウム 「熊本地震からの復興と教育プログラム」
2017/9/9	平成29年度熊本大学政創研政策フォーラム 私がみんなと育てる「ふるさと」
2017/9/30	災害ボランティア交流会 / 学生ボランティア報告会 「災害復興における大学生のまなざし 2017」
2017/9/30 ～ 10/28	熊本大学知のフロンティア講座 「熊本県の防災・減災を考える」
2017/11/11	第9回 熊本大学政創研公共政策コンペ 「熊本のこれからを、私たちが創る。」
2018/2/16	第7回 熊大政創研地域づくり交流会 「ふるさとづくりと若者」
2018/5/26	第8回 熊大政創研地域づくり交流会 「災害と風景、営みの継承」
2018/9/29	学生ボランティア報告会・交流会 「災害復興における大学生のまなざし 2018」
2018/10/6	平成 30 年度熊本大学政創研政策フォーラム 「熊本地震復興のこれからを考える ーおたがいさまの社会づくりー」
2018/11/10	熊本大学熊本創生推進機構公共政策コンペ 「熊本の元気を私たちが創る。」

研究

平成28年度 COC 科目一覧および履修者数

カテゴリ	開講 年次	開講 区分	曜日 時限	授業テーマ	授業科目名	単位 数	履修 者数	合計
STEP1	熊本の歴史、文化、産業、医療、環境といった広範な現代社会の諸課題への理解を深める	1	第1ターム	木3	肥後熊本学（シリーズ1） 「熊本の希少動物」と「肥後伝統の植物」	学際科目 40	1	23
		1	第1ターム	金5	肥後熊本学（シリーズ2） 「熊本の保健医療福祉」と「こうのとりのゆりかご」	学際科目 41	1	64
		1	第2ターム	金5	肥後熊本学（シリーズ3） 「歴史文化」	学際科目 42	1	73
		1	第2ターム	金4	肥後熊本学（シリーズ4） 「自然災害リスクと持続可能なまちづくり」	学際科目 43	1	150
STEP2	地域のまちづくりについて学び・考える	1	前期	水4	地域づくりの社会学	グローバルな社会の動態 K	2	203
		1	前期	水4	環境保全と地域づくり	グローバルな社会の動態 A	2	165
		2	前期	月5	都市まちづくり学入門	学際科目 16	2	48
		1	前期	木4	減災リテラシー入門	学際科目 29	2	142
		1	後期	木4	減災型地域社会づくり	学際科目 30	2	103
		1	前期	水4	市民参加とまちづくり	都市・建築入門 D	2	160
		1	後期	木5	実践から学ぶまちづくり	社会連携科目 15	2	116
		1	後期	金5	社会参加とはどのようなことか	社会連携科目 23	2	53
		1	後期	木3	認知症になっても安心して暮らせるまちづくり入門	社会連携科目 43	2	45
		1	前期	木5	熊本の伝説を探る	最前線の社会文化研究 G	2	164
		1	前期	金4	五高と近代日本	学際科目 9	2	104
		1	後期	木5	地域の言葉	言語の構造と歴史 C	2	不開講
		1	前期	水4	文学の森 熊本の文学	文学の読解と鑑賞 C	2	72
STEP3	地域の歴史・文化について学び・考える	1	前期	木3	日本建築を歴史的にみる	都市・建築入門 C	2	93
		1	後期	木3	ヨーロッパの都市と建築	都市・建築入門 A	2	29
		1	後期	金5	芸術文化考	社会連携科目 7	2	156
		1	第1ターム	金4	多文化共生と日本語	社会連携科目 45	1	124

総計 3624

カテゴリ	開講 年次	開講 区分	曜日 時限	授業テーマ	授業科目名	単位 数	履修 者数	合計
STEP2	自然環境と地域の暮らしについて学び・考える	1	第4ターム	木3	家庭・地域の教育力を問う	現代社会と教育 02	1	96
		1	第3ターム	木3・4	実験で知る青い惑星 1	地球環境科学の最前線 01	1	1
		1	第4ターム	木3・4	実験で知る青い惑星 2	地球環境科学の最前線 02	1	1
		1	後期	水4	惑星地球の水循環	地球環境科学の最前線 G	2	221
		2	後期	月2	くらしと環境	学際科目 38	2	11
		1	後期	金3	日本の経済地理	自然と人間の地理学 B	2	171
		1	前期	木3	火山を究める	社会連携科目 10	2	100
		1	前期	木4	熊日 新聞制作講座	社会連携科目 4	2	58
		1	後期	木4	女性と職業	社会連携科目 6	2	184
		1	後期	金4	インターネットの発展と人間社会	社会連携科目 14	2	54
		1	前期	木4	現代社会と地域医療―医療現場からのメッセージ	社会連携科目 16	2	93
		1	第1ターム	金4・5	生活に関わる環境・資源・地域力	社会連携科目 28	2	73
		1	後期	木3	企業から学ぶ情報通信技術（ICT）	社会連携科目 29	2	52
STEP3	地域問題と事例から社会や技術について学び・考える	1	前期	水4	ジャーナリズム論1・九州グローバル化の課題	社会連携科目 36	2	89
		1	後期	水4	ジャーナリズム論2・地球環境と水俣病	社会連携科目 37	2	96
		1	第1ターム	金4	人権と性を考える	社会連携科目 39	1	49
		1	第3ターム	金4	ハンセン病講座	社会連携科目 40	1	71
	PBL 科目	1	第3ターム	金3	地域デザイン論	学際科目 39	1	39
		2	前期	月4	人々の暮らしから学ぶ地域の課題解決	社会連携科目 46	2	7
		3	後期	金4・5	水俣地域インターンシップ・フィールドワーク学習 / 対立・葛藤解決コミュニケーションワークショップ	コミュニケーション情報学 特殊講義 B	2	不開講
		1	前・後		災害支援実践	社会連携科目 47～49	1, 2	71

総計 3624

平成29年度 COC 科目一覧および履修者数

カテゴリ	開講 年次	開講 区分	曜日 時限	授業テーマ	授業科目名	単位 数	履修 者数	合計
STEP1	1	第1 ターム	火 4	熊本の芸術文化	肥後熊本学	1	149	1736
	1	第1 ターム	木 4	水俣病の社会史：水俣病を知っていますか	肥後熊本学	1	121	
	1	第1 ターム	金 4	医療と社会 －医療における情報共有と個人情報・遺伝子情報－	肥後熊本学	1	150	
	1	第2 ターム	水 4	自然：植物（薬科学）[蕃滋園・伝統野菜・本草学]	肥後熊本学	1	150	
	1	第2 ターム	木 4	幕末維新熊本人物列伝	肥後熊本学	1	145	
	1	第3 ターム	水 3	ハンセン病差別とその克服に向けて	肥後熊本学	1	139	
	1	第3 ターム	木 4	夏目漱石とラフカディオハーン	肥後熊本学	1	144	
	1	第3 ターム	金 4	永青文庫の史料にみる戦国・近世初期の肥後熊本	肥後熊本学	1	146	
	1	第4 ターム	火 4	熊本の水環境	肥後熊本学	1	144	
	1	第4 ターム	火 3	まちづくりと地域課題を知る	肥後熊本学	1	150	
	1	第4 ターム	水 3	希少野生動植物	肥後熊本学	1	149	
STEP2	1	第4 ターム	水 3	自然災害（科学と技術）	肥後熊本学	1	149	3444
	1	前期	木 4	減災リテラシー入門	持続可能な都市と 地域づくり A	2	105	
	1	第2 ターム	月 5 木 5	都市まちづくり学入門	地域づくりと 科学技術 A	2	35	
	1	後期	月 4	認知症になっても安心して暮らせるまちづくり入門	心身の健康と 看護 C	2	99	
	1	後期	金 5	社会参加とはどのようなことか	キャリア科目 4	2	5	
	1	第3 ターム	火 5 金 5	まちの基盤づくり	持続可能な都市と 地域づくり B	2	37	
	1	前期	金 4	五高と近代日本	地域づくりと 科学技術 F	2	110	
	1	第1 ターム	月 3	地方創生文化論	学際科目 2	1	83	
	1	第1 ターム	木 5	熊本の伝説を探る1	最前線の 社会文化研究 g	1	175	
	1	第2 ターム	木 5	熊本の伝説を探る2	最前線の 社会文化研究 h	1	174	
	1	後期	月 5	映像・博物館人類学の現在	最前線の 社会文化研究 A	2	120	
	1	後期	金 5	芸術文化考	芸術への招待 C	2	102	
	1	第4 ターム	木 3	世界遺産の社会学（続）	最前線の 社会文化研究 f	1	60	
	1	第4 ターム	火 3 金 3	日本建築を歴史的にみる	地域づくりと 科学技術 C	2	31	

カテゴリ	開講 年次	開講 区分	曜日 時限	授業テーマ	授業科目名	単位 数	履修 者数
STEP2	1	第1 ターム	月 3	火山を究める（1）	地球環境科学の 最前線 g	1	146
	1	第1 ターム	月 3 木 3	現代日本の地域構造と地域問題	自然と人間の地理 学 A	2	56
	1	第2 ターム	月 3	火山を究める（2）	地球環境科学の 最前線 h	1	189
	1	後期	金 3	生活と教育	現代教育について 考える B	2	183
	1	第3 ターム	水 3・4	環境と化学物質	化学と環境 C	2	49
	1	第3 ターム	木 3・4	実験で知る青い惑星 その1	地球環境科学の 最前線 c	1	10
	1	第4 ターム	木 3・4	実験で知る青い惑星 その2	地球環境科学の 最前線 d	1	6
	1	第1 ターム	火 3・4	福祉住環境コーディネート	豊かさを持続させ るものづくり B	2	161
	1	第1 ターム	火 5 金 5	くらしの中の化学	ものづくりの科学 と技術 G	1	83
	1	第2 ターム	火 3・4	新技術開発史	ものづくりの科学 と技術 B	2	129
	1	第3 ターム	火 3 金 3	身近な科学技術がわかる基礎化学	ものづくりの科学 と技術 F	2	117
	1	前期	火 5	熊日 新聞制作講座	キャリア科目 1	2	50
	1	前期	金 4	現代社会と地域医療―医療現場からのメッセージ	現代社会と医学	2	193
	1	第1 ターム	木 3・4	人間と環境	自然と人間の地理 学 B	2	112
STEP3	1	第1 ターム	木 4・5	熊本地震 1年後の被災地を歩く	自然と人間の地理 学 C	1	32
	1	第1 ターム	金 4・5	生活に関わる環境・資源・地域力	地域づくりと 科学技術 B	2	116
	1	第2 ターム	月 4	人権と性を考える	現代世界の形成と 課題 a	1	81
	1	第2 ターム	水 3	ボランティア論	キャリア科目 52	1	165
	1	第2 ターム	水 4	ジャーナリズム論・世界の水銀問題と水俣条約	現代政治の諸相 c	1	94
	1	後期	火 4	女性と職業	キャリア科目 3	2	177
	1	第3 ターム	月 4	ハンセン病講座	現代世界の形成と 課題 b	1	65
	1	第3 ターム	水 4	ジャーナリズム論・九州グローバル化の課題	現代政治の諸相 d	1	94
	1	第2 ターム	火 4 水 3	多様性と人々の暮らしへの眼差しによる 社会課題解決	Area StudiesE	2	18
	1	第3 ターム	金 5	地域デザイン論	学際科目 3	1	13
	1	集中講義		ボランティア実践	キャリア科目 53	1	9
	1	後期	金 4・5	水俣地域インターンシップ・フィールドワーク学習 / 対立・葛藤解決コミュニケーションワークショップ	コミュニケーション 情報学 特殊講義 B	2	7
							47
							47

総計 5227

平成30年度 COC科目一覧および履修者数

	カテゴリ	開講 年次	開講 区分	曜日 時限	授業テーマ	授業科目名	単位 数	受講 者数	旧 カリ	合計
STEP1	熊本の歴史、文化、 産業、医療、環境 といった広範な現 代社会の諸課題へ の理解を深める	1	第 1 ターム	火 5	古墳からみた肥後熊本と近畿中央政権	肥後熊本市学	1	147	0	1781
		1	第 1 ターム	火 3	熊本と感染症学	肥後熊本市学	1	151	0	
		1	第 1 ターム	水 4	蕃滋園・伝統野菜・本草学	肥後熊本市学	1	149	0	
		1	第 1 ターム	水 4	水俣病の社会史：水俣病を知っていますか	肥後熊本市学	1	140	0	
		1	第 1 ターム	木 5	幕末維新熊本人物列伝	肥後熊本市学	1	150	0	
		1	第 2 ターム	火 5	夏目漱石とラフカディオ・ハーン	肥後熊本市学	1	150	0	
		1	第 2 ターム	水 4	地域課題を知り地域を創る仕組みを考える	肥後熊本市学	1	151	0	
		1	第 2 ターム	水 4	熊本の水環境	肥後熊本市学	1	152	0	
		1	第 2 ターム	木 3	熊本の民俗文化と伝説	肥後熊本市学	1	157	0	
		1	第 2 ターム	木 5	水俣病とその原因究明に尽くした熊大教員の軌跡	肥後熊本市学	1	119	0	
		1	第 2 ターム	金 5	熊本の火山と地質	肥後熊本市学	1	153	0	
		1	第 3 ターム	火 3	ハンセン病差別とその克服に向けて	肥後熊本市学	1	162	0	
STEP2	地域のまちづくり について学び・考 える	1	前期	木 3	減災リテラシー入門	持続可能な都市と 地域づくり A	2	49	5	4058
		1	第 2 ターム	月 5 木 5	都市まちづくり学入門	地域づくりと 科学技術 A	2	51	7	
		1	第 2 ターム	水 4	「社会」に参加するとはどのようなことか	キャリア科目 59	1	91	12	
		1	後期	月 4	まちの基盤づくり	持続可能な都市と 地域づくり B	2	146	0	
		1	第 3 ターム	水 4	文化による中心市街地活性化を考える	キャリア科目 60	1	22	4	
	地域の歴史・文化 について学び・考 える	1	前期	金 3	五高と近代日本	地域づくりと 科学技術 F	2	206	44	4058
		1	前期	金 4	映像・博物館人類学の現在	最前線の 社会文化研究 A	2	177	0	
		1	第 1 ターム	火 4	日本語における語彙の諸相 1	言語の諸相 a	1	180	0	
		1	第 1 ターム	金 4	熊本の伝説を探る1	最前線の 社会文化研究 g	1	176	0	
		1	第 2 ターム	月 3	地方創生文化論	学際科目 2	1	43	8	
		1	後期	金 5	芸術文化考	芸術への招待 C	2	15	24	
		1	後期	金 4	日本建築を歴史的にみる	地域づくりと 科学技術 C	2	132	0	
		1	第 4 ターム	火 4	世界遺産の社会学（続）	最前線の 社会文化研究 f	1	161	0	

	カテゴリ	開講 年次	開講 区分	曜日 時限	授業テーマ	授業科目名	単位 数	受講 者数	旧 カリ	合計
STEP2	自然環境と地域の暮らしについて学び・考える	1	第1ターム	月4	火山を究める1	地球環境科学の最前線 g	1	166	0	4058
		1	第1ターム	金4	現代日本の地域構造と地域問題 1	自然と人間の地理学 a	1	182	0	
		1	第2ターム	月4	火山を究める2	地球環境科学の最前線 h	1	155	0	
		1	第2ターム	金4	現代日本の地域構造と地域問題 2	自然と人間の地理学 b	1	168	0	
		1	第3ターム	木3・4	実験で知る青い惑星 1	地球環境科学の最前線 c	1	3	2	
		1	第4ターム	月4	持続可能な社会の実現をめざす教育について考える	現代教育について考える b	1	132	0	
		1	第4ターム	木4	はじめて学ぶ海洋学（深海編）	地球環境科学の最前線 b	1	80	0	
		1	第4ターム	木3・4	実験で知る青い惑星 2	地球環境科学の最前線 d	1	0	4	
	地域の身近な生活の中の技術について学び・考える	1	前期	月5	地域で生活する重症心身障がい児の支援を考えよう	キャリア科目 11	2	44	3	
		1	第1ターム	火3・5	福祉住環境コーディネート	豊かさを持続させるものづくり B	2	64	4	
		1	第2ターム	火3・4	新技術開発史	ものづくりの科学と技術 B	2	6	2	
		1	第2ターム	火3金3	資源循環型社会の実現を目指して	ものづくりの科学と技術 D	2	46	0	
		1	第2ターム	火5金5	くらしの中の化学	ものづくりの科学と技術 G	2	61	7	
		1	後期	月5	将来なにをしよう、どんな仕事に就こう	キャリア科目 5	2	103	14	
1		後期	金4	現代社会と病気	病気の医科学 C	2	142	0		
1		第3ターム	火3金3	身近な科学技術がわかる基礎化学	ものづくりの科学と技術 F	2	62	0		
地域問題と事例から社会や技術について学び、考える	1	前期	火5	熊日 新聞取材実践講座	キャリア科目 1	2	30	0		
	1	前期	金5	現代社会と地域医療―医療現場からのメッセージ	現代社会と医学 B	2	171	28		
	1	第1ターム	金4・5	生活に関わる環境・資源・地域力	地域づくりと科学技術 B	2	70	23		
	1	第1ターム	水4	ジャーナリズム論・世界の水銀問題と水俣条約	現代政治の諸相 c	1	116	37		
	1	後期	木4	女性のライフコースとキャリア	キャリア科目 3	2	80	16		
	1	第3ターム	月4	ハンセン病講座	現代世界の形成と課題 b	1	146	0		
	1	第3ターム	水4	ジャーナリズム論・九州グローバル化の課題	現代政治の諸相 d	1	97	21		
	1	第4ターム	火4	人権と性を考える	現代世界の形成と課題 a	1	158	0		
	1	第4ターム	水3	ボランティア論	キャリア科目 52	1	51	11		
	STEP3	PBL 科目	1	第1ターム	木5	熊本地震 2 年後の被災地を歩く	自然と人間の地理学 c	1	13	9
1			後期	水3	環境配慮活動を行う	キャリア科目 14	2	29	4	
1			第3ターム	火3	地域デザイン論	学際科目 3	1	16	3	
1			集中講義		ボランティア実践	キャリア科目 53	1	2	0	
1			集中講義		多様性と人々の暮らしへの眼差しによる社会課題解決	Area Studies(e)	1	22	4	

平成28年度 ボランティア活動実績
【復興ボランティア活動支援プロジェクト】

活動内容	活動時期	学生 募集 人数	学生 参加 人数	自治体
学内被災者支援（留学生が中心となって外国語と日本語レッスンや書道、折り紙、ヨガ、アートセラピー、トルコとポーランドダンス、映画等の様々な活動）	4/25 ～ 4/28	熊大留学生 多数		熊本市 （熊大内）
アパート内の掃除、災害ごみの搬出（ささえりあ浄行寺からのリクエスト）	5/14 10：00 ～ 15：30	2	2	熊本市
	8/7 9：00 ～ 12：00	2	1	熊本市
避難所での運動指導	5/14 13：00 ～ 17：00	4	4	西原村
避難所の引越し、パーテーションの設置	5/18 10：00 ～ 15：00	40	34	益城町
	5/19 10：00 ～ 15：00	40	34	益城町
避難食による栄養バランスの偏りを改善するために提供する サプリメントの小分け作業	5/18 1 限～ 4 限	各時限 10	16	全被災 自治体
子どもとのレクリエーション活動ボランティア	5/22 13：00 ～ 17：00	数名	中止	熊本市
避難所での体操支援ボランティア	随時 西原村は定期開催中	学生の 募集なし		熊本市 西原村
車中泊の現状調査を実施	5/22 17：00 ～ 19：00	10	9	御船町
	5/24 19:00 ～ 21:00	10	3	御船町
	5/25 19:00 ～ 21:00	10	2	御船町
	5/26 19:00～21:00	10	中止	御船町
	5/28 7：00 ～ 9：00	10	5	御船町
集約される避難所にパーティションを設置、引越しの補助	6/4 10:00 ～ 15:00	40	36	御船町
	6/5 10:00 ～ 15:00	40	18	御船町
火の君文化センター（熊本市南区）で避難所の自治形成推進、炊き出しボランティア	5/23	4	4	熊本市
火の君文化センター（熊本市南区）で避難所の自治形成推進、足湯ボランティア	6/1	4	4	熊本市
農業ボランティア（キャベツ畑の草取り）	6/18 10：00 ～ 15：30	40	19	産山村
被災自治体ボランティア	6/25 10：00 ～ 15：30	40	中止	南阿蘇村
被災自治体ボランティア シイタケ原木起こし、ハウス撤去、田植え直し、清掃	7/2 10：00 ～ 15：30	40	29	菊池市
被災自治体ボランティア（農業ボランティア）	7/16 10：00 ～ 15：30	40	35	西原村
被災自治体ボランティア（シイタケ原木起こし、田植え直し）	7/23 10：00 ～ 15：30	40	27	菊池市
被災自治体ボランティア（シイタケ原木起こし）	7/30 10：00 ～ 15：30	40	25	菊池市
熊本県観光連盟ボランティア（県内観光地の被災状況の把握、発信、事務所の作業補助）【長期】 Kumarism	2016 年度随時開催	5	18	県内全域 （天草市）
STREET ART-PLEX ピアノ ボランティア演奏	6/29 13:00 ～ 19:30	教員による 企画		熊本市
益城町避難所運営ボランティア【長期】	随時	数名	1	益城町

活動内容	活動時期	学生 募集 人数	学生 参加 人数	自治体
宇城市避難所運営ボランティア【長期】 （避難所集約、仮設住宅入所およびコミュニティ形成支援プロジェクト）	6/28 ～翌年 3/31	数名	1	宇城市
宇城市家財整理、水害対応ボランティア	6 月 27 日	2 ～ 3 名	2	宇城市
	7 月 4 日	2 ～ 3 名	2	宇城市
市立体育館での健康状態、生活不活発病調査	随時	作業は 2 名 1 組	中止	熊本市
Café 型健康サロンへの呼び込み、茶話会の話し相手	随時	作業は 2 名 1 組	中止	熊本市
避難所の子供に勉強を教える教育学部のボランティア	6/20 から開始	教育学部 12 名	13	熊本市 （城南、龍田）
避難所における教育ボランティア	7 月 23 日	2	2	御船町
	7 月 30 日	2	2	
益城町仮設住宅団地での住民への聞き取り調査	7 月 21 日からほぼ毎日	4 名ずつ	578	益城町
被災地の子ども達へ心のケアボランティア （被災地御船地区の小学生との交流活動）	8/20 10:00 ～ 17:00	30	6	御船町
氷川ダム流域親子デイキャンプ	9/19(延期) → 11/27 10:00 ～ 13:00	20	8	氷川地区
仮設住宅入居者支援（ガラスおこし）	8 月 22 日	募集なし	募集 なし	益城町
	8 月 23 日	募集なし	募集 なし	熊本市
	10 月 22 日	各 2	3	益城町
	11 月 27 日	各 2	2	
被災自治体ボランティア（床下の土砂除去、清掃）	2016/8/27 7：30 ～ 18：30	5 名程度	6	南阿蘇村
滝尾小学校の子供たちの運動支援ボランティア	10/18 ～ 12/22 毎週月・火・木 15：00 ～ 18：00	各日 5 名程度	69	御船町
熊本地震復興支援チャリティーライブ さゆりチャンコンサート	11/8 13：00 ～	数名	1	益城町
仮設住宅住環境整備 カビ対策などの啓発資料の作成、配布、説明【長期】	2016 年度内随時	募集なし		県内全域 仮設住宅
演劇ワークショップ“身体による感情の伝え方 ～イタリア古典仮面劇コメディア・デッラルテの技法から”	12/5	若干名	31	熊本市
益城町仮設住宅へのクリスマスケーキ配達ボランティア 九州キリスト災害支援センターとの共同実施	12/3	3	2	益城町
	12/4	3	3	
西原村古閑地区復興イベント支援	12/23	数名	2	西原村
益城ラボクリスマス会イベントボランティアソラシドエアとの共同開催	12/25	10	13	益城町 ましきラボ
御船町立滝尾小学校引っ越し支援ボランティア	12/25	20	7	御船町
西原村フリーベーパー配布支援、傾聴ボランティア	1/9	7	6	西原村
Journeys of Uncertainty and Recovery: Learning from theChallenges for Refugees	1/31	募集なし		熊本市
熊本地震復興支援チャリティーライブ さゆりチャンマリンバコンサート	1/25	数名	2	熊本市
西原村フリーベーパー配布支援、傾聴ボランティア	2/21	7 名	7	西原村
熊本地震復興支援チャリティーライブ さゆりチャンマリンバコンサート	2/28	数名	1	熊本市
西原村フリーベーパー配布支援、傾聴ボランティア	3/11	7 名	6	西原村

平成 29 年度 ボランティア活動実績
【復興ボランティア活動支援プロジェクト】

活動内容	活動時期	学生 募集 人数	学生 参加 人数	自治体
西原村古閑地区追悼式	4 月 16 日	7	4	西原村
西原村情報誌配布（医王寺、下古閑、日向地区）	5 月 30 日	7	4	西原村
西原村情報誌配布（医王寺、下古閑、日向地区）	7 月 12 日	7	4	西原村
益城木山仮設団地視察、活動打ち合わせ（熊本 YMCA）	4 月 30 日	7	11	YMCA
熊本地震 1 年 西原村復興大座談会	5 月 20 日	4	4	西原村
仮設住宅のグリーンカーテンの設置（益城町）	5 月 21 日	7	1	熊本県
	5 月 28 日	7	3	
	6 月 4 日	20	12	
農業ボランティア（苗床作成）	5 月 20 日	7	7	菊池市
農業ボランティア（田植え）	6 月 24 日	7	5	菊池市
農業ボランティア（栗拾い）	9 月 24 日	7	4	菊池市
農業ボランティア（ごぼう植栽）	12 月 10 日	7	4	菊池市
阿蘇デザインセンターで活動打ち合わせ、阿蘇観光地取材	5 月 16 日		4	阿蘇 DC
西原村夏祭りのお手伝い	7 月 22 日	7	3	西原村
地とうきびの種まきと収穫	7 月 15 日	7	4	阿蘇市
地とうきびの種まきと収穫	10 月 27 日	7	4	阿蘇市
大分県日田市で九州豪雨災害ボランティア	7 月 16 日	7	4	日田市
「西原村復興祭」において、祭りの運営支援	7 月 22 日	7	4	西原村

活動内容	活動時期	学生 募集 人数	学生 参加 人数	自治体
見守り支援（学習ボランティア） テクノ仮設団地	7 月 26 日	2	1	益城町
	8 月 7 日	2	3	益城町
	8 月 8 日	2	2	益城町
	8 月 21 日	2	2	益城町
	8 月 22 日	2	2	益城町
	8 月 24 日	2	2	益城町
	8 月 25 日	2	2	益城町
	8 月 28 日	2	1	益城町
	8 月 29 日	2	3	益城町
	8 月 30 日	2	2	益城町
	8 月 31 日	2	1	益城町
仮設団地でのコンサートボランティア	7 月 30 日	3	1	益城町
中学生にパワーポイント指導	8 月 9 日		4	芦北町
あきつみんなの防災フェスタ	8 月 27 日		2	熊本市
木山仮設団地夏祭り	8 月 27 日		17	益城町
防災ワークショップ in 天草	9 月 16 日		1	天草市
益城町英語劇 ボランティア	9 月 24 日		1	熊本市
平成 29 年度健軍東校区総合防災訓練のお手伝い	10 月 8 日		1	熊本市
復興プロジェクト～みんなの笑顔で熊本を元気に～，地球フェスタ WA 2017九州 in 阿蘇	10 月 14 日	3	4	阿蘇市
	10 月 29 日	6	4	熊本市
	11 月 23 日	6	1	熊本市
	12 月 16 日	6	6	熊本市
	1 月 13 日	6	6	熊本市
	3 月 24 日	6	4	熊本市
	2 月 3 日	6	4	熊本市

平成30年度 ボランティア活動実績
【復興ボランティア活動支援プロジェクト】

活動内容	活動時期	学生 募集 人数	学生 参加 人数	自治体
農業ボランティア（苗床作成）	5月12日	7	2	菊池市
農業ボランティア（田植え）	6月24日	7	1	菊池市
農業ボランティア（稲刈り）	10月21日	7	2	菊池市
農業ボランティア（猪よけネット撤去）	11月25日	7	2	菊池市
長崎県立大学ボランティア学生交流会	5月27日		5	
熊本地震 ドキュメンタリー映画『西原村』上映会ボランティア	7月21日		1	阿蘇市
熊本地震 ドキュメンタリー映画『西原村』上映会ボランティア （熊本市内上映会）	8月2日		1	阿蘇市
	8月3日		1	阿蘇市
アートリノベーションのボランティア	8月10日		1	益城町
西日本豪雨災害ボランティア	8月24日		3	広島県
	8月25日		3	広島県
「あきつみんなの防災フェスタ」サポートボランティア	10月14日		2	熊本市
つながる藤山プロジェクト（藤山仮設団地）D-SEVEN	4月28日	6	4	熊本市
	5月26日	6	4	熊本市
	6月16日	6	7	熊本市
	7月7日	6	台風 中止	熊本市
	7月21日	6	4	熊本市
	8月20日	6	4	熊本市
	11月11日	6	5	熊本市

活動内容	活動時期	学生 募集 人数	学生 参加 人数	自治体
つながる藤山プロジェクト（藤山仮設団地）D-SEVEN	12月1日		6	熊本市
	1月26日	6	5	熊本市
西原・益城クリスマスボランティア	12月23日	6	2	西原・益城
図書館展示用パネル製作	12～1月		2	

▼ その他の活動

活動内容	活動時期	学生 参加人数	自治体
手野集落の未来を共に創るプロジェクト （手野地区山村活性化協議会主催）	5月19日	7	阿蘇市
	6月23日～24日	12	阿蘇市
	7月26日～27日	3	阿蘇市
	9月23日～24日	13	阿蘇市
	10月20日	12	阿蘇市
学生ボランティア報告会・交流会 「災害復興における大学生のまなざし 2018」	9月29日	17	県立大学

社会貢献 社会人の学び直しのための教育コンテンツ展開

ビジネス人材育成講座
「研修設計入門セミナー」

開催日	参加人数
平成30年5月31日	11社・17名
平成30年6月21日	10社・15名
平成31年2月14日	14社・21名

熊本大学公開講座
「インストラクショナルデザイン入門編」
（eラーニングの活用）

開催時期	受講者数
平成29年度	34名
平成30年度	23名

受講者：自治体職員、医師、看護師、高校教諭、
大学教職員など

熊本大学 地（知）の拠点整備事業

活力ある地域社会を共に創る火の国人材育成
(熊本大学COC事業)

最終報告書

平成31年 3月

発行：熊本大学熊本創生推進機構地域連携部門

